

## 福岡空港アクセスバス分科会（第1回）議事要旨

---

### （開催要領）

- 1 日時 平成29年10月18日（水）11：05～11：25
- 2 場所 FUKUOKA growth next
- 3 出席
  - <国>  
村上 敬亮 内閣府 地方創生推進事務局 審議官（代理：中西 良太 参事官補佐）
  - <自治体>  
永浦 洋彦 福岡市 総務企画局 理事  
守田 剛 福岡市 住宅都市局 都市計画部長
  - <民間事業者>  
戸島 匡宣 株式会社ロイヤルバス 代表取締役会長
  - <オブザーバー>  
中藪 祐蔵 国土交通省 九州運輸局 自動車交通部 旅客第一課長
  - <事務局>  
竹下 和宏 福岡市 住宅都市局 都市計画部 交通計画課長

### （議事次第）

1. 開会
2. 報告事項
  - （1）福岡空港アクセスバス分科会の設置について
3. 議題
  - （1）福岡空港アクセスバス分科会運営規則（案）について
  - （2）福岡空港アクセスバス事業の運行状況及び利用促進の取り組みについて
  - （3）福岡空港のアクセスの状況について
4. 閉会

---

**【守田部長】** ただいまより、第1回福岡空港アクセスバス分科会を開催いたします。

私は、福岡市住宅都市局都市計画部長の守田と申します。どうぞよろしく願いいたします。分科会の出席者につきましては、参考資料1の出席者名簿をもってご紹介にさせていただきますが、本日、内閣府の村上審議官につきましては、急遽、所用により欠席となり、代理で中西参事官補佐に参加いただいております。

初めに、内閣府中西参事官補佐よりご挨拶をよろしく申し上げます。

【中西参事官補佐】内閣府の中西と申します。一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日の分科会開催にあたりまして、福岡市、ロイヤルバス様、九州運輸局の皆様にはご協力いただき感謝申し上げます。

福岡空港は、日本国内でも有数の発着回数、乗降客数を誇る重要な拠点であると同時に、国内のみならず、アジアとのゲートウェイとして、インバウンドの観点からも、福岡空港にかけられる期待は大きなものがあると認識をしております。民間への運営委託も着々と準備が進められていると聞いており、今後さらなる利用者増加が見込まれるものと考えております。

この分科会におきましては、国家戦略特区の特例を活用して行われた事業が、利用者の利便性に資する形で行われているかどうかについての確認を、関係者で行っていただく場であると認識しております。

今後、利用者増加が見込まれる福岡空港にとって、さらなるアクセスの向上は非常に重要なテーマであると考えておりますので、是非、関係者の皆様の忌憚ないご意見を伺い、実りある会にさせていただきたいと考えております。

【守田部長】 ありがとうございます。

それでは、事務局より報告事項（１）の福岡空港アクセスバス分科会の設置について、説明いたします。

【竹下課長】 資料１をご覧ください。事務局の福岡市交通計画課長の竹下です。福岡空港アクセスバス分科会の設置について、ご報告させていただきます。

この分科会につきましては、参考資料２、平成28年７月15日付内閣府・国土交通省事務連絡を踏まえ、本年２月10日に開催しました区域会議におきまして、特例の活用が区域計画に盛り込まれ、株式会社ロイヤルバス様によって事業が実施されたことから、空港アクセスバス事業における公正な競争の確保による利用者利便の向上を目的に分科会を設置することを決定いたしました。

構成員につきましては、国、自治体及び運行事業者の三者により構成されますが、必要に応じ、オブザーバーが参加するというようにしております。

本日は、オブザーバーといたしまして、国土交通省九州運輸局様にご出席いただいております。

協議事項につきましては、特例を活用して行う運賃及び運行計画の設定など、利用者利便の増進に関する事項、停留所の設置・利用に関する調整状況など停留所に関する事項、その他必要な事項となります。

分科会の開催につきましては、定期的に開催し、特例措置を活用して行われた事業が適正に実施されているのか確認いたします。以上、説明を終わります。

【守田部長】 続いて、議題（１）福岡空港アクセスバス分科会運営規則（案）について、事務局より説明いたします。

【竹下課長】 それでは、資料２をご覧ください。福岡空港アクセスバス分科会運営規則（案）について、説明させていただきます。

この分科会は、原則非公開とし、分科会の終了後、速やかに会議資料を公表するとともに、分科会の議事要旨を作成し、公表することとしております。

こちらは、他の分科会と同じような形で決めさせていただきたいと考えております。以上、説明を終わります。

【守田部長】 以上の説明に対し、ご意見等がありましたらお願いします。

ございませんでしょうか。それでは、議題（１）につきましては、原案のとおり決定させていただきます。

【守田部長】 続きまして、議題（２）福岡空港アクセスバス事業の運行状況及び利用促進の取り組みについて、ご議論いただきたいと思います。資料３につきましては、株式会社ロイヤルバス 戸島会長よりご説明をよろしくお願いいたします。

【戸島会長】 ロイヤルバスの戸島と申します。よろしくお願いします。本日は、こういった機会をいただきありがとうございます。手短になります説明させていただきます。

まず、運行概要のところから申し上げさせていただきます。おかげさまで、４月２７日より福岡空港国内線、国際線を発着させていただき、ヒルトン福岡シーホークまで、直行便であります。26便、朝の６時から20時45分の運行時間帯で、大型バスを活用し、運賃は直行便1,000円にてスタートさせていただきました。また、利用者の利便性向上のため、利用者ニーズや飛行機の出発、到着時間を踏まえ、7月15日から、キャナルシティ博多、天神を経由する便を追加するとともに、全体的なダイヤの見直しを行い、運行しております。

運賃は、一般道の都市高速を利用しない場合で、キャナルシティ博多、天神までは500円、一般道でヒルトン福岡シーホークまで利用した場合は700円、都市高速道路を利用した場合は1,000円頂戴しております。

次のページは運行ルートとなりますが、紫色が都市高速道路を利用した便で、赤色が都市高速道路を利用しない一般道を利用した便で、福岡空港国内線、国際線を経由し、キャナルシティ博多、福岡市役所・天神、ヒルトン福岡シーホークまでのルートとさせていただいております。

次のページのバス乗り場ではありますが、福岡空港の国内線、国際線において、既存事業者との調整のもと、写真ようなバス停を作り、乗り場として利用させていただいております。

次の利用状況ではありますが、4月から8月までの実績を記載させていただいておりますが、4月の数字については27日からの運行のため、数値が低くなっておりますが、その後も、少しずつではありますが、ご利用いただくお客様が増えている状態にあります。まだ、月間6,000名を超えるところでもありますので、もっと周知し、利用者を増やしていけたらと思っております。

次に、停留所別に利用状況をグラフにしております。国内線を出発しますが、大半が国際線でご乗車いただき、ヒルトンでの降車が多くなっております。復路便に対しても、ヒルトンからの乗車がほとんどで、そのほとんどが国際線で降車いただくという、停留所別の利用状況となっております。

次に路線開設の効果でございますが、福岡空港と百道地区を直結させていただき、今までにない路線、観光客にとっては、荷物を抱えて乗車しなくてよいとか、生活路線のバス停を経由するのではなく、キャナルシティ、天神、ヒルトンへ乗り継ぐことなく行けるため、比較的旅客ニーズに対応した路線になっていると考えております。

次に利用促進の取り組みについてご説明いたします。

福岡空港国際線では、多言語対応でのデスクを設けさせていただいております。下にある写真は、ヒルトン福岡シーホークのコンシェルジュデスクですが、韓国語、中国語が喋れるスタッフが常駐し、窓口のサービスを行っております。また、バス車内へのコンシェルジュガイドブックの設置を行ったり、ハーツフォンと呼びます24時間コンシェルジュが対応するような携帯電話の貸し出しや、運営デスクでヒアリングによる観光客のニーズを収集する取り組みを、ヒルトン福岡シーホークコンシェルジュデスクや福岡空港国際線デスクで行っております。

次のページです。営業活動として、国内の旅行社だけでなく、韓国、中国、台湾、香港タイを始めとするアジア圏ではありますが、現地旅行会社と直接提携し、商品を作る営業活動を行っております。また、キャナルシティ地区や天神地区のバス停近隣ホテルとのセット販売の提携や、各バス停付近企業への営業活動を行うなど、決してインバウンドだけではない取り組みを行っております。

また、広告PRとして各国のSNSやブログ等へのPRやブロガーを呼んだり、自社運営SNSでのキャンペーン告知による拡散を行ったり、福岡空港ポケット時刻表への広告掲出、福岡ソフトバンクホークスポケット日程表への広告掲出、福岡ヤフオクドームのビジョンでの

告知を行ったり、まだまだではありますが、具体的な取り組みを行っている次第です。以上です。

【守田部長】 ありがとうございます。

ただいまのご説明に対し、ご意見、ご質問があればよろしく申し上げます。

【守田部長】 それでは、続きまして、議題（3）福岡空港アクセスの状況について、事務局より説明いたします。

【竹下課長】 それでは、資料4をご覧ください。福岡空港のアクセスの状況について、明いたします。

福岡空港への公共交通によるアクセスについては、主に都心部の博多駅、天神方面が充実しており、地下鉄、路線バス、タクシーによるアクセスが可能となっております。

国際線については、国内線とターミナルビルが分離設置されていることから、相互を連絡している無料バスを利用するか、国際線にアクセスする路線バスを利用する方法がございましたが、国際線ターミナルからヤフオクドームやヒルトンホテルがある観光客に人気の百道エリア、年間1,600万人以上が利用する大型複合商業施設のキャナルシティ博多には乗り換えが必要で利便性の向上が課題となっております。

今回、株式会社ロイヤルバス様の「福岡エアポートアクセスバス」の運行開始により福岡空港のアクセス向上が図られることになりました。

続いて、福岡空港にアクセスするバスの新設・増便の近況についてですが、株式会社ロイヤルバス様の新規路線開設に加え、既存事業者である西日本鉄道株式会社様におかれましても既存バス路線の増便や福岡空港国際線～西鉄大橋駅間の新規路線の運行開始など、福岡空港利用者の利便性向上が図られているところでございます。以上で説明を終わります。

【守田部長】 ただいまの説明や全体に対し、ご意見、ご質問がございましたらよろしく申し上げます。

よろしいでしょうか。それでは、今回、国家戦略特区の特例措置を活用して行われた株式会社ロイヤルバス様の福岡空港アクセスバス事業が適正に実施されているか、分科会において、確認したいと思いますけれども、適正に実施されているということで、よろしいでしょうか。

【一同】 異議なし。

【守田部長】 ありがとうございます。

それでは、今後とも福岡空港への輸送需要の増大に的確に対応し、空港利用者の利便の

増進を図ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

これで議事も終了いたしましたので、第1回福岡空港アクセスバス分科会を終了いたします。本日は、ありがとうございました。

— 了 —